

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:平成27/年 3月 日

事業所名 放課後等デイサービス 第2アップル 保護者等数(児童数)16(15) 回収数12 割合 80%

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	6	3	3	0	・今の子ども達の利用人数がわからない。 ・少し狭いと思う。	法令に遵守したスペースを確保しています。空間の使い方を工夫します。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	7	5	0	0		職員配置においては手厚く配置しています。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	3	2	1		利用者の状況により設備の検討を行います。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	11	1	0	0		職員で課題整理を行い、アセスメントして計画を作成しています。
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	9	2	1	0		個別と集団のプロプログラムを組み合わせています。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	6	6	0	0	・以前はあったが、今はない。	学習交流が出来なくなりましたが、地域に出かける機会を可能な限り多くしていきます。
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	12	0	0	0		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	10	2	0	0	・連絡帳や送迎時に話が来て安心。	子どもの状況や課題共有は非常に大切であると認識しています。
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	10	2	0	0		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	4	1	0	・保護者会の開催はあるが、つながりのない保護者もある。	保護者に方に意見をいただきながら、励めていきます。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8	2	1	0	・苦情を言ったことがない。	
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	10	2	0	0		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	10	2	0	0		
非常時 等の 対応	14	個人情報に十分注意しているか	10	2	0	0		
	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	6	3	3	0	・マニュアルを見たことがない。	保護者の方には、アップルだよりや保護者会、面接などを利用し、説明します。
満足 度	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9	3	0	0	どのように避難するか知りたい。	月1回 集合訓練(災害時)を実施しています。
	17	子どもは通所を楽しみにしているか	12	0	0	0	・毎日楽しみにしている。 ・笑顔で帰ってくる。	子どもが楽しいと感じることができ、居場所になるよう活動をしていきます。
	18	事業所の支援に満足しているか	12	0	0	0	・職員の方にはとても親切に対応して頂き、本人に合わせた支援をしてもらい感謝している。	

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 年 月 日

事業所名 放課後等デイサービス 第2アップル

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	3	0		学習に集中できる部屋を確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	8	0	0		利用者2人に1人の職員配置。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	3	4		現在の利用者に対しては、適切に利用できている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	3	0		毎日のミーティングを利用している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	0			保護者会や送迎での情報収集に努める。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	2	3			アップルだより、ホームページなどで公表予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	0	8			第三者評価ができていないことが課題である。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	3	1		ケース理解について全職員研修。県や市主催の研修の参加。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	6	0	1		大阪府相談支援ハンドブック障がい児アセスメント表を参考に検討予定
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	0		毎月のプログラムや長期休暇のプログラムを立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	0			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1	0			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	3	0		集団設定のプログラムと個別活動を組み合わせている。	個別活動の充実をさらに検討する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	0		毎日のミーティングを利用している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	4	0		パート職員の時間が一定でないため当日は全員揃うことができないが、翌日のミーティングで共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	0			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	0			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	2	0			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	1	0		児童発達支援管理責任者が出席している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	0		毎日の送迎時や緊急時は電話、面接などで連絡調整をしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	2	0	4		医療的ケアが必要な児の利用は現在ない。地域の病院との連携協定をしている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	3	1			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	3		3		現時点では対象者はないが、情報提供は大切であると認識している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1		1	発達支援センターなどの助言を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	3	0			実施していたが、受け入れ側の課題もあり現在は実施できていない。地域の施設などを利用している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	2		1	児童発達支援管理責任者が参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	0		連絡帳の利用や送迎時に話をすることで共通理解を持っている。	課題については、日頃から面接や書面での共有に力を入れている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	6	0	1	ペアレント・トレーニングとしては行っていないが、面接などで紹介することがある。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	0			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	2	0			保護者との交流を常に大切にし、保護者会の開催も実施しているが、今後一層の支援が必要と考えている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4	1	1		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	0		苦情は発生していない。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	0			
	35	個人情報に十分注意している	8	0	0			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	0		黒板や絵、写真などを利用している。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	6	2		可能な範囲で地域のイベントや施設を利用している。	地域の事業などに積極的に参加していきたい。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	2	0		職員間では周知できている。保護者への説明も保護者会などを利用して実施したい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	0	毎月実施	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	3		1	研修などを充実させる。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	5	1		組織的に決定するマニュアル作りを行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	0		保護者を通じて指示をもらっている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	4	1		報告書を作成し、事業所内で共有している。